

2023. 4. 2 (日) マタイ 27 : 45 ~ 50

27:45 さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。

27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

27:47 そこに立っていた人たちの何人かが、これを聞いて言った。「この人はエリヤを呼んでいる。」

27:48 そのうちの一人がすぐに駆け寄り、海綿を取ってそれに酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けてイエスに飲ませようとした。

27:49 ほかの者たちは「待て。エリヤが救いに来るか見てみよう」と言った。

27:50 しかし、イエスは再び大声で叫んで霊を渡された。

<説教>

今週は受難週です。およそ 2000 年ほど前のある金曜日、イエス・キリストはエルサレムで十字架に磔（はりつけ）にされました。その日の午後三時ごろ「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と十字架につけられたイエスは大声で叫ばれ、更に再び大声で叫んで死なれました。

イエスの十字架の死は、私たち人間、つまり神の前に罪ある者、罪人のための死でした。〈キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われ〉(I ペテロ 2:24a) しました。イエスは私たちのために、私たちの身代わりとなって十字架で死んでくださいました。そのイエスが墓に葬られ、三日目に復活なされ、死にも打ち勝ってくださいました。そのようにして今も生きて天におられるイエスが、私たち罪人の、世界でただお一人の救い主であります。来主日は復活のイエスを、またイエスをよみがえらせた父なる神を礼拝するイースターです。イエスの復活のことは来主日に改めて学ぶとして、本日は十字架で私たちの罪のために死んでくださったイエスに目を留めたいと思います。

そもそも私たち人は神の前でどういう存在なのかということは、聖書の最初の書である創世記に記されています。〈はじめに神が天と地を創造され〉ました(創世記 1:1)。神は天地万物すべての創造の第六日、最後に人間をお造りになりました。〈神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造〉しました(同 1:26)。〈神である主は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなりました(同 2:7)。他の動物や魚や植物と違って、人は特別に〈いのちの息〉を神から吹き込まれてこの世に生まれました。他の動物などより遙かに優れた知性、感性、意思などを神は人にお与えになりました。それは神のみことば、御意思に従って、神と共にこの被造物世界を支配するためでした。神がお造りになり〈非常に良かった〉(同 1:31) 世界のお世話をし、また人間同士良く仕え合うためでした。そうやって神に仕え、神と同じ思いで、神の働きをするためでした。

だから、人はそんなにも素晴らしい特別な者として造られたことを神に感謝し、神の善意を信じ、神のみことばだけを喜んで聞き、神から委ねられた働きをすべきでした。しかし、人はそうしませんでした。神ではない、悪魔の声に人は耳を傾け、神を疑い、神の御意思に反逆し、神が「食べてはならない」とお命じになった善悪の知識の木の実を取って

食べて神のようになろうと高ぶったのです（同 3 章）。そんな最初の人アダムとエバの子孫であるその後の人もアダムの罪を生まれながらに受け継ぎ生まれて来るようになります。そんな人は被造物の世話をしたり、お互いに仕えるどころか、被造物を自分勝手に自分の欲望のままに支配しています。人は人を殺し、神が全く良くお造りになった自然世界を破壊し続けます。神から与えられた力や神がお造りになった物を利用して核分裂や核融合の技術を手に入れ、それを悪用して今や大量殺人兵器を大量に作り出すまでもなっています。神は人を非常に良くお造りになったのに、人の方が一方的に神に反逆し、神に背を向けて生きるようになり、神の前に罪人として生きているのです。

さてそんな恩知らずにも神に反逆した罪人に対して義なる神は当然怒りを発せられました。罪人に対して神は「死」という刑罰をお定めになりました。それで、その観点からすれば、やがて死ぬべき私たちの人生は、いずれ死刑執行されるまでの猶予期間ということになります。そして〈人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている〉（ヘブル 9:27）のです。死後の神のさばきによって有罪判決となれば、その人には永遠に神から見捨てられる場所、神なき地獄の刑罰が定められているのです。

しかし、義であると同時にあわれみ深い神は、罪人が地獄で永遠に滅びることがないように、反対に無罪判決を受け、地獄の刑罰を免れ、天国で神とともに永遠に生きるただ一つの道を備えてくださいました。その道がイエス・キリストです。神はそのひとり子イエスを人として私たち罪人の世界に遣わしてくださいました。それは私たちの身代わりにイエスを十字架で死なせ、またよみがえらせ、そのイエスを信じる私たちに無罪判決を下し、地獄の刑罰を免れさせ、天国に入れてくださるためでした。イエスは人として、完全に神に従い抜いた、罪無き人、義人です。そのイエスが私たちの罪をすべてその身に負ってください、本来私たち罪人が神の怒りとして受けるべき死という刑罰、地獄の刑罰を十字架の上で私たちの身代わりに受けてくださったのです。

イエスは十字架の上で「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれました。神がイエスをお見捨てになったのは、そうでなければ私たちを見捨てなければならなかったからです。イエスが十字架で神から見捨てられてくださらなかったとしたら、私たち罪人が「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と永遠に地獄で神に叫ばなければなりません。神から見捨てられることほど恐ろしく、絶望なことはありません。それこそはこの世でもあの世でも究極で永遠の絶望なのです。イエスが十字架上でお受けになった苦しみですが、そこには両手両足を釘付けされ、そこに全体重がのし掛かって肉が裂かれるという肉体的な痛みということはもちろんありました。しかし、それと同時に、いや以上に「わが神から見捨てられる」という、たましいに受けた限りない苦しみ、それはもう私たち人間の創造を越えた、表現のしようがない苦しみだったのです。

神から罪をさばかれ、怒りを受けて永遠に見捨てられることこそ地獄です。地獄では神の怒りとのろいのもとにある罪人が「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と永遠に叫び続けるのです。このように、私たちはイエスの十字架に地獄を見ます。と同時に天国をも見ます。なぜなら、そう叫んだのが私たちではなく、イエスだったからです。そのイエスが、私たち、神の怒りとのろいを身に招いている罪人の希望です。イエスが私たち罪人のために、私たちの身代わりに十字架で神の永遠の怒りとのろいをそのからだにたましい完全に受けてくださったので、このイエスを信じ、イエスに信頼する私たちは本来

自分がからだとたましいで受けなければならない神の永遠の地獄の苦しみ、さばきを免れさせていただいているのです。

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」。このイエスの叫びは“わけわからんちゃん”な子どもみたいな泣き言ではありません。イエスはどのようにご自分が神から見捨てられなければならないかをよく知っておられました。それは私たちのためです。イエスは十字架で死なれる前の最後の晩餐の席で弟子たちに、ご自分のからだ「あなたがたのために与えられる」、ご自分の血が「あなたがたのために流される」と言っておられました（ルカ 22:19-20）。イエスが十字架で叫ばれたのは、どこまでも私たちのため、私たちの身代わりとしてだったのです。そのイエスを信じる私たち罪人を神の怒り、地獄の永遠の滅びから救い、永遠に神とともにある天国へ招き入れてくださるためだったのです。